

南九州化学工業株式会社

会社概要

設立 昭和27年12月
代表者 代表取締役社長 中川 辰司
従業員 70名
業種 肥料及び園芸用育苗培土の製造・販売業
所在地 高鍋町大字蚊口浦5029
TEL/FAX 0983-23-0660 / 0983-23-2729
URL <http://www.nankyu-c.co.jp/>



代表取締役社長 中川 辰司氏

表彰理由

「りん」を主成分とする肥料を中心に多種類の肥料や園芸用育苗培土を製造販売。長年にわたり、九州及び中国四国地域への販売網を有する地場企業であり、県内農業に多大な貢献をしている。
りん肥の原料であるりん鉱石の輸入が困難となる世界的な動きの中で、新たに鶏糞燃焼灰を肥料の原料に活用するという、全国的にも数少ない取組を行っている。

会社紹介

本県養鶏場を起点に排出される大量の鶏糞燃焼灰を、りん肥料の原料に有効活用

鶏糞燃焼灰をりん肥へ活用するに至った背景

世界情勢の変化

りん鉱石の価格が高騰

りん鉱石に代わる資源を探索・検討。
県内で発生する鶏糞燃焼灰を原料に活用した新たな熔成肥料及び化成肥料を開発



りん鉱石



鶏糞燃焼灰



鶏糞燃焼灰を原料とした熔成肥料の試作状況



PKエースジュニア



鶏糞燃焼灰を原料とした化成肥料 (PKエースジュニア)

株式会社 宮 防

会社概要

設立 昭和46年10月
 代表者 代表取締役 村社 勝
 従業員 30名
 業種 建設業(建築一式、防水等)
 所在地 宮崎市大字田吉1886番地
 TEL/FAX 0985-53-1008 / 0985-53-1044
 U R L <http://www.miyabo.co.jp/>



代表取締役 村社 勝氏

表彰理由

自社の防水・塗装技術を生かし、独自の遮熱塗装に関するノウハウ・施工技術力と商品力で畜産業界などにおける夏場の温度上昇に関する問題解決に貢献している。
 遮熱塗装という時代のニーズに乗る新しい事業展開により、売上を伸ばしており、まさに中小企業として、時代に対応した企業である。

会社紹介

遮熱塗料を用いた新しい事業展開

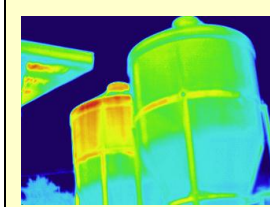


自社開発の遮熱塗料を
 様々な箇所に応用



生コン車 ドラム部分

遮熱効果による、生コン温度抑制が認められ、
 国内で初めて国土交通省NETISに登録されました。
 全国33都府県、約1,200台にて採用実績があります。



畜舎・飼料タンク

宮崎大学農学部や公設試での施工データでは
 飼料タンク内の温度差は最大で12.5℃抑制
 されました。結露抑制にも期待されています。



住宅・工場屋根

省エネ問題が具体化される中、ファームバリアは工場屋根や一般住宅を中心に多くの建物で貢献しています。
 より多くのお客様へ体感してもらう為、リーズナブルな価格で「経済的かつ快適に」を目的として販路を拡大しています。

平成20年 宮崎経営革新計画承認(遮熱塗装)

平成21年 宮崎県建設産業経営基盤強化支援事業採択

平成22年 宮崎県建設産業経営基盤強化支援事業採択

平成23年 宮崎経営革新計画承認(薄膜太陽光)

平成23年 国土交通省 フロンティア事業採択

平成23年 宮崎県中小企業事業化支援補助金採択

平成24年 国土交通省 NETIS登録

平成24年 経済産業省 地域新成長産業群創出事業採択

平成24年 宮崎市ものづくり技術改善補助事業採択

有限会社 四位農園

会社概要

設立 昭和40年
 代表者 代表取締役 四位 廣文
 従業員 165名
 業種 農業、農産加工
 所在地 小林市野尻町三ヶ野山3028
 TEL/FAX 0984-44-0109 / 0984-44-0502
 URL <http://www.shii.co.jp/>



VEGETABLE FARM



代表取締役 四位 廣文氏

表彰理由

宮崎県の地域資源である野菜や茶を、自ら生産することで安全性および、低コストの追及をするとともに、その野菜類を加工する工場を整備することで安心安全な全国有数の野菜のサプライチェーンを構築。戦略的な事業展開により、農業のビジネス化を実現。本県の農業産業の先駆的企業であり、地域の雇用にも大きく貢献している。

会社紹介

国産野菜の栽培・収穫・加工の一貫したトレーサビリティ管理の実現

生産

独自の完熟堆肥／適地適作・適期適作

- ・食糧等の栽培に適した環境にある150haもの肥沃な土地
- ・安心・安全は当然ながら、本物の味や機能性を備えた農産物を栽培

加工

新鮮うちに冷凍加工を行い、全国に出荷

- ・圃場から冷凍加工までを一貫した管理のもと行うことで、さらなる安心・安全を追求
- ・一次加工処理から冷凍までを行うことで、年間を通した食糧供給を実現

品質方針

四位農園は自然界の気候、大地を生きし人間等の共生の為の自然循環型農業を目指します。

- 今不足しているものが何か調査して対応し続ける。
- 本物の食品、すなわちそれぞれの個体としての機能を持った食品に育てて出荷し続ける。
- 栽培するものは食しても、自然界に放置しても安全である形で栽培し続ける。
- 農業界での自然原理の理解に邁進し、それを地域に開示し後世に継承し続ける。
- コスト削減を最大限に行い、会社の経営は常に黒字経営を維持する。



霧島山麓に広がるほうれん草畑

高原フリーウェイ工業団地に農産加工場（第2工場）を新設
野菜の2次加工や、中国・ASEAN諸国への輸出も視野に入れる

